# 心ゆたかに

三芳町立藤久保中学校　学校だより　第６号
学校教育目標　「自ら考え進んで行動する生徒」
令和６年 10 月 15 日（火）発行 文責 菅谷　和孝


## 「イメージ」

校長　菅谷和孝

2学期が始まり1か月が過ぎ、「半袖では肌寒い季節になったな」と秋の季節を感じるようになってきましたが、今月の初めには校長室に蝉の鳴き声が聞こえました。1日の中でも気温の変化が激しい日が続き、まだまだ服による調節が難しいですが、皆様も体調管理にはお気を付けください。

さて、新人体育大会の予選会や中間テストも終わり、生徒会も新生徒会本部役員が選出され、今週から本格的に合唱祭の練習も始まりました。私が本校に着任して初めて生徒たちの合唱を聞いたのは‘入学式’でした。私自身、校歌が合唱になっているのを聞いたのが初めてで、幼稚園から大学まで、さらには教員として勤務した全ての学校の校歌が斉唱で、藤久保中学校の校歌を聞いたとき、すごく新鮮で素晴らしいと思ったとともに、生徒たちの歌声に感動したことを鮮明に覚えております。合唱は大勢の人が集まって「ひとつのハーモニー」をつくることが出来るところだと思います。私たちは一人で和音を奏でることができませんが、合唱することでハーモニーが生まれて、全パートの声の響きが一致した瞬間などを体験することができるのが合唱の醍醐味だと私は思っています。おそらく、クラスの中には歌が得意な人もいれば、そうでない人もいると思います。また、集団で奏でることから、個人が目立ってしまっては合唱として完成しません。当たり前ですが、歌は文字を伝えるものでもありません。自分たちが奏でる曲の歌詞を理解したうえで、雰囲気をイメージし、それをどう表現するか、その曲を誰に伝えたいのかなどが大切になると思います。ぜひ、クラスで自分たちの曲を自分たちのもの、クラスのものにするべく練習を重ね、最高の演奏を目指してくれることを願っています。

演奏といえば、実は私の父は音楽家（歌舞伎囃子演奏家）で、太鼓や鼓を演奏していました。歌舞伎の公演は1か月ほど続くので、年間では複数の公演の稽古を含め、結構な期間、家を空けることがあり、たまに帰ってきても次の公演の台本を覚えるための練習をしていた父でした。そんな父に私が幼いころ、「なんでそんなに練習するの」と聞いたことを思い出しました。父は「メインは（歌舞伎）役者。それを音楽で支えるんだけど、０．1秒でもタイミングがずれたらすべてが台無しになってしまうんだよ。」と言われたことを思い出しました。家で練習するときは音が出てうるさいので楽器を使わず、常に本番の公演をイメージし、おそらく本番の公演回数以上の公演をイメージしながら練習をしていたと思います。もちろん父はその道のプロなのですが、今思えば、表現者としてイメージ練習を大切にしていたからこそ、長年にわたり活躍し続けたんだと思いました。

私自身、競泳というスポーツを長らく行っていましたが、水中練習や筋トレの他、目標を掲げた重要な競技会の前は、何度も何度も当日のレースでベストタイム（良い結果）が出せるようにイメージトレーニングをしていました。もちろん、イメージトレーニングには成功イメージトレーニング以外にも、たくさんの種類と方法があります。自分の目的や効果にあったイメージから課題を見つけることもできます。イメージ（想定）は受験や競技会、発表会など、ここ一番の勝負をする時や、計画的に目標を設定する時に大切になります。様々なイメージから色々な場面で、生徒一人ひとりが自分の力を、クラスの力を最大限に発揮してくれることを願っています。そして、合唱祭ではクラスの相乗効果で、最高の演奏をしてくれることを期待しています。

＜ホームページが新しくなりました＞

ホームページを新しくしました。新しいホームページは右のQRコードからアクセスできます。

藤久保小中学校　藤久保小中学校　藤久保小中学校